



◆◆◆ カイニヨ見学会を開催 ◆◆◆

《カイニヨの靈気にひたる》

7月21日(土)会員他17名参加 砺波市内で大杉の保存樹のある大嶋宅と保存屋敷林のある岡本宅の2軒をめぐる見学会を開催しました。

◎砺波市庄川町五ケの大嶋武子さん宅。樹齢400年を超える杉の大木がある。ご家族の話では、庄川に松川除けの堤防がなかったころは、しょっちゅう氾濫して洪水になった。大水のたびに周りは水浸しになった。何回も庄川の氾濫の洗礼をくぐり抜けてきたスギの忍耐の形に一同畏敬の心で幹に手を添えた。

家角に400年ほどの杉が天に向かい真っ直ぐに伸びていた。五ケには、ほかにも何本もの大杉がある。五ケの地名も、五箇山から降りてきた人たちが遠くからでも目に付くこれらの大杉を目印に生活していたともいう。

杉の根っこは浅いが、もともと微高地だったので、条件は良かった。大嶋家の大杉も根っこは家の縁の下にも伸びている。地上の根も根上りになっている。平成16年の台風やジェーン台風は、北風の暴風が吹いたので特に記憶に残っている。南風は、意外と強い。

『ほかの杉は、いつ植えたのですか?』の質問に、自然に生えてきたもので『植えていない』とのことであった。大杉は、400~500年ほどかも。倒れて切った杉は、年輪380は超えていた。

柏樹前代表幹事からは… 砺波の杉では、600年が最高樹齢。見学した大杉は、樹種は「地杉」、市の保存樹になっており、胸周りで5本足すと7.55m あり市内2番目で、市の財産である。ヒサカキやネズミモチがあり、これらを残すと杉のためにもよい。

根でも息をしているので、根上りのままでよい。圃場整備前は、カイニヨはうっそうとしていた。



◎砺波市五郎丸の岡本昇一さん宅。屋敷林全体が、保存屋敷林に指定されている。かつては、200本ほどのカイニヨに囲まれていたが、平成16年10月の台風で80本倒れた。杉が50本倒れ、北側で42本、他で8本。柿が8本、トチなど杉の下にあった樹々がドミノ状に倒れた。今は菜園になっている所も杉が植わっていた。クワやウルシもあったが、杉の苗木を50本植えた。ケヤキ苗も植えたが、雪で曲がってしまった。いろんな樹種を植えてある。

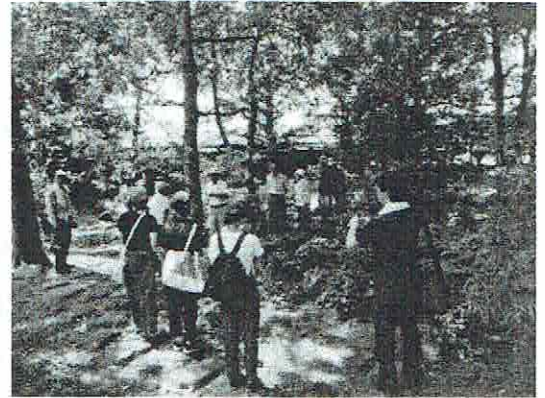
柏樹前代表幹事からは…岡本さん宅は、宅地が広く面積は4,700㎡もある。宅地内には、昔の生活の名残りである池や川が残っている。水道がまだなかった時代、宅地内に川を引き込み池に水をためて浄化装置を作り飲み水としていた。流しの洗い物もその池を使っていた。

今でも残っているお宅は少なく、珍しい遺構である。

スタジイなどの広葉樹が多く植えられているカイニヨである。

杉は、供木で何十本も切られている。カイニヨとしては、高木、中木、低木がバランスよく植えられている。

シラカシ、ウラジロガシもある。低木のツツジなどもうまく配置されている。スタジイは、植えたものである。海岸筋にあるタブやクスもある。



<参加者の声>

2軒の見学を終えて、散居村ミュージアムに戻り、参加者に感想を語ってもらった。

- ・たいへんだろうけど羨ましいです。暑い日でも、クーラーも要らないんでしょうね。
- ・大嶋宅の大杉はよく残ったなあと思う。今後に残してほしい。
- ・一般のお宅で500年600年の樹があることに驚いた。ご神木だ。我々は今日見ただけだが、その間、家も傷んだり風が怖かったりしただろう。もっとみんなに知ってほしい。岡本宅は大きな敷地で、維持管理がどうなるんだろう。
- ・掃除が大変。草処理も大変。暑い日は涼しい。
- ・大杉には、ほんとに天狗さまが住んでる感じ。羨ましい。触れられてよかった。
- ・大杉の、何本にも分かれているのは初めて見た。カイニヨの中は涼しく外気との違いを実感。
- ・10年前、父がカイニヨ倶楽部に入っていた。私は、今回初参加。我が家は1,000㎡の屋敷も大変だが、2軒とも手入れが素晴らしい。
- ・郡山から参加。屋敷林が好き。大阪や千葉で生活したが、違う景観で、長く継承されているのがいい。砺波はほかとかなり違う。庭園的で、間を広くとっている。防風というより景観を大事にしている。手入れが大変だ。
- ・心に何か残ればいいなあ。汗かきながらでも残ればいいなあ。我が家の屋敷は、岡本宅の半分だけど600本の木が植わっている。屋敷内に400本あり、年をとって掃除が楽しみ、苦痛ではない。働き盛りではむづかしい。男性81.07歳の平均寿命まで、あと10年頑張り楽しむ。
- ・富大の屋敷林調査があり、見学に行くたびに新しい発見がある。大嶋宅は初めてで、すごい木を発見した。昔はおそらく普通に生えていた天然林の名残りか。岡本宅は手入れされて人為的なカイニヨ。
- ・高岡で生まれ育ち、砺波は初めてだが、歴史を感じた。管理が大変。
- ・石川出身で、砺波の散居村も屋敷林も知識はゼロだった。初めて家の人の話も聞いた。我が家にも樹があるが、もっと多くて大変だ。
- ・何十年カイニヨを見てきたが、8,000戸の散居村は、日本でも珍しい。これらは全部違って同じものは一つもない。樹と生きている人間もいることを敬うし楽しみである。

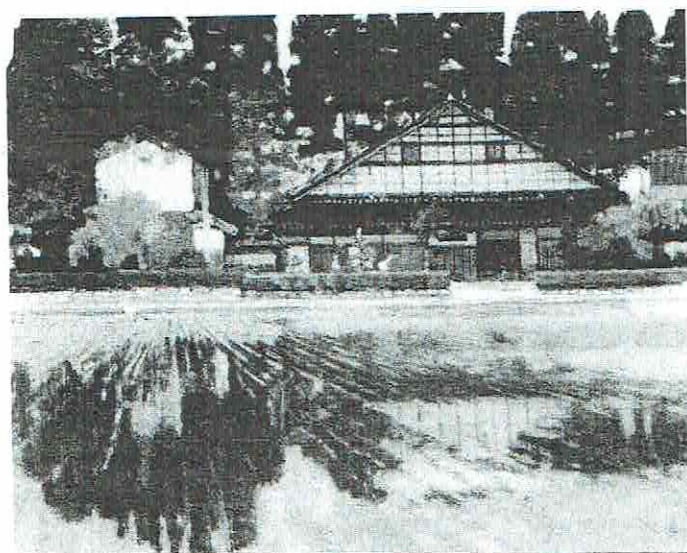
☆☆☆ 会員の氷見長徳様から絵画の寄付を受ける ☆☆☆

氷見長徳様よりカイニヨ倶楽部に『散居村』と題する大きな絵画をいただきました。描かれているのは、となみの散居村を代表する田植え直後のアズマダチ入道家の景色です。

2008年第40回日展に入選された作品で、横幅160cm高さ130cmの大作です。倶楽部としては、多くの人々に見ていただけるように、となみ散居村ミュージアムに展示していただくこととしました。(ミュージアムでは、情報館の奥のワクノウチに展示する予定です。)

皆様機会を見て、足をお運びください。

氷見長徳様には、たくさんのとなみ『散居村』を描いていただきまことにありがとうございました。感謝申し上げます。



〈氷見長徳様画歴〉

1945 高岡市片原横町生れ
1968 金沢美術工芸大学油絵科卒業
1970 県展大賞受賞以後は勤美展・独立展・光風会などで入選・受賞を多数重ねる
1999 日展入選以来 11 回入選
2014 日展会友

アトリエ 高岡市菰布

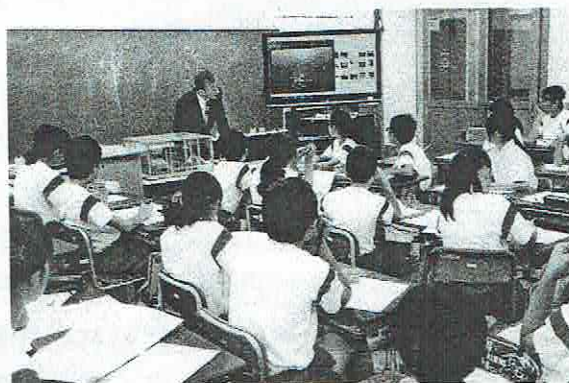
●次期世代へ散居村とカイニヨの必要性を伝える●

(散居村とカイニヨ勉強会)

- 次期世代：砺波東部小学校 6年生 (水木先生)
- 日時：2018年 平成30年5月31日 10時
- 会場：砺波東部小学校 教室
- 説明者：天野
- 内容

1. 人間が生きるとは？
2. 散居村の特徴と成り立ち
3. カイニヨの昔の役割
4. カイニヨの今・将来の必要性
5. カイニヨのある散居村の将来

□資料：スライド(写真)・模型



(カイニヨ見学会)

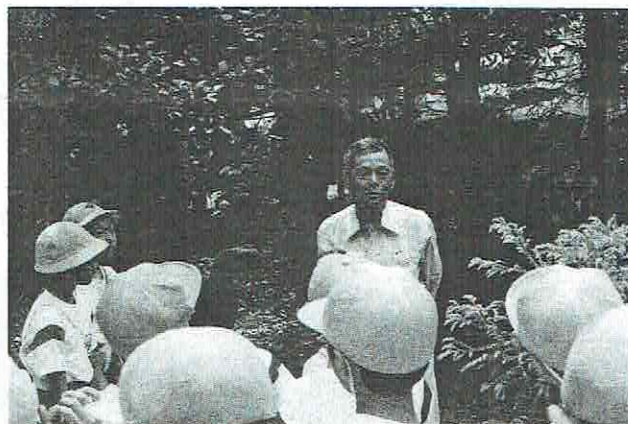
□次期世代：砺波東部小学校 6年生 (水木先生)

□日 時：2018年 平成30年6月5日 10時

□会 場：高畑宅 カイニヨ

□内 容：カイニヨの中を散策

- ・樹木の位置（南・西に多い。風が強いから）
- ・樹木の種類（杉を主とする）高木・中木・低木に分けられる。
- ・果樹（柿や栗他）
- ・カイニヨを建物・家具に利用（室内の腰板・食器棚）
- ・落葉や枝の始末（掃いて根本に集め肥料としている。）
- ・樹木と他生き物（沢山の生き物が生息している）
- ・屋敷廻りの用水の水生植物と動物



(カイニヨ3軒見学)

□次期世代：砺波東部小学校 6年生 (水木先生)

□日 時：2018年 平成30年7月4日 10時

□会 場：高畑宅・元井實宅（砺波市保存樹屋敷林）・元井甚正宅

□説明者：柏樹・高畑・天野

□内 容：現存するカイニヨ3軒を見学し、特徴を知る。

